

# 社員が語るNiploの今。

## 質問、あなたにとって松山とは？、仕事とは？

### SCENE-1 開発

答える人 開発部 大村 英昭



私たちの仕事は「あったらいいな」を形にしていくこと。  
つねに挑戦していきたいと思っています。

#### PROFILE

所属：開発部  
入社年：2002年  
出身地：長野県上田市  
出身校：北海道大学大学院 工学研究科修士

大学院では、宇宙環境応用工学分野を専攻していた大村さん。熱システム工学の分野で学んだ知識を、機械の開発設計に活かしたいと思っていた。そんな彼が松山を選んだ理由とは。

まさに百聞は一見に如かず、ですね。

#### Q-A …なぜ、松山を選んだのですか？

学生時代から、自動車とか宇宙関連のメーカーに勤めている先輩の話聞くことは多かったんですよ。そうした話を聞いていると、メーカーの製品開発の面白さを感じる半面、物足りなさも感じるわけです。話のスケール自体は大きなものなのだけれど、しょせん関われるのは一部分なのかなと。せっかく関わるのだったら、最初から最後まで関わらせて欲しい、そう思っていたんです。

だから、自分としては、完成品の研究・開発・設計に一貫して携われる会社にと考えていました。

ところが、いざそう考えて周りを見回してもこれといった完成品メーカーがない。それで、長野県企業の合同説明会に初めて出かけてみたところ、松山に出会ったというわけです。

#### Q-B …実際に会社を見た時の第一印象は？

会社訪問した時に感じたのは、やはり完成品メーカーならではの雰囲気があるんだなということ。うまく言えないのですが、空気感が他社とは違っていました。ちなみにその時、一緒に訪問した3人のうち2人が同期で入社したんですね。

もともと農作業機の知識はなかったのですが、機械構造や機構の開発が主なのかなと思っていたのですが、実際には自走機や電動収穫機もあり、環境関連の装置もある。機械設計だけじゃなく、油圧や電気、システムなどの開発もしていかなきゃいけないということも、そこで本当に実感しました。まさに百聞は一見に如かず、です。

#### Q-C …社員になってから、松山のイメージは変わった？

Niploの知名度がどれだけ高いのかわかったのは、社員になってからです。さらに仕事で農家を訪ねるようになって、ブランドを担う重みというか、責任の大きさをひしひし感じるようになりました。

### 農業用機械は旬のあるビジネス。

#### Q-D …いま、あなたの仕事は？

開発部は商品群ごとにスタッフがグループ分けされています。しかし、基本はそれぞれのスタッフが担当機種を持って進めていくスタイルです。構想するところから始めて、設計、試作、試験もすべて、実際に自分たちの手で行っていきます。

現地試験ともなれば、全国各地へかけて行って、直接農家の方とも触れあいながら進めるわけです。開発といってもオフィスに閉じこもって

いるわけではなく、かなり行動的です。

現在私はあぜぬり機のチームに携わっていますが、農業用機械は旬のあるビジネスなんですよ。春には新商品として展開されなければいけない。だから結構気合が入っています。

#### Q-E …松山の自慢できる点とは？

松山の最大の特徴は、自社で製品を開発設計し、製造し、販売している完成品メーカーであるということ。そして、農業という暮らしの基幹に関わる産業分野で仕事をし、役立っているということですね。

仕事のやりがいという点で言えば、担当者は製品の構想から生産にいたるすべてに携わることができる。その面白さでしょうか。

#### Q-F …これからどんなことを実現していきたいですか？

日本の農業には、まだまだ自動・省力化が求められる部分がたくさんあります。手作業で苦勞していたり、コストが掛かり過ぎていたり。そういう部分をどうやって快適に、便利にしていくか、課題は多いんですよ。私たちの仕事は「あったらいいな」という声を形にしていくこと。異分野の技術や製品にも興味を持ち、つねに挑戦していきたいと思っています。

#### Q-G …休日・オフは何をしていますか？

基本的にはスキーが大好きなので、楽しんでます。実を言うと大学進学の時も、スキーができる所が前提条件でした。(笑)

後は昔からの友人と遊びに出かけたりかな。地元の行事や地域活動にも結構積極的に参加しています。

### やりがいがあるかどうかは、大切なことだ。

#### Q-H …どんな人に来て欲しいですか？

機械いじりが好きな人。自分が作り出す製品で社会に役立ちたいと思っている人。粘り強く挑戦していくことができる人かな。

仕事を選ぶ上で、やりがいがあるかどうかは、大切なことだと思います。どうしてその仕事をやりたいと思うのか、どのように実現していきたいと思っているのか。それを忘れずに就職活動に取り組んで欲しいと思います。